

# 令和4年度学校自己点検・自己評価結果

埼玉医科大学附属総合医療センター看護専門学校

令和6年1月

本校の教育活動について年報にまとめて、9年になります。

この度、私立専門学校等評価研究機構が実施する第三者評価のための評価基準書を参考に「令和4年度学校自己点検・自己評価」をまとめましたので、結果を次のように公開いたします。

大項目の評価では、前年度の比べ、大項目10項目中5項目が上昇しています。

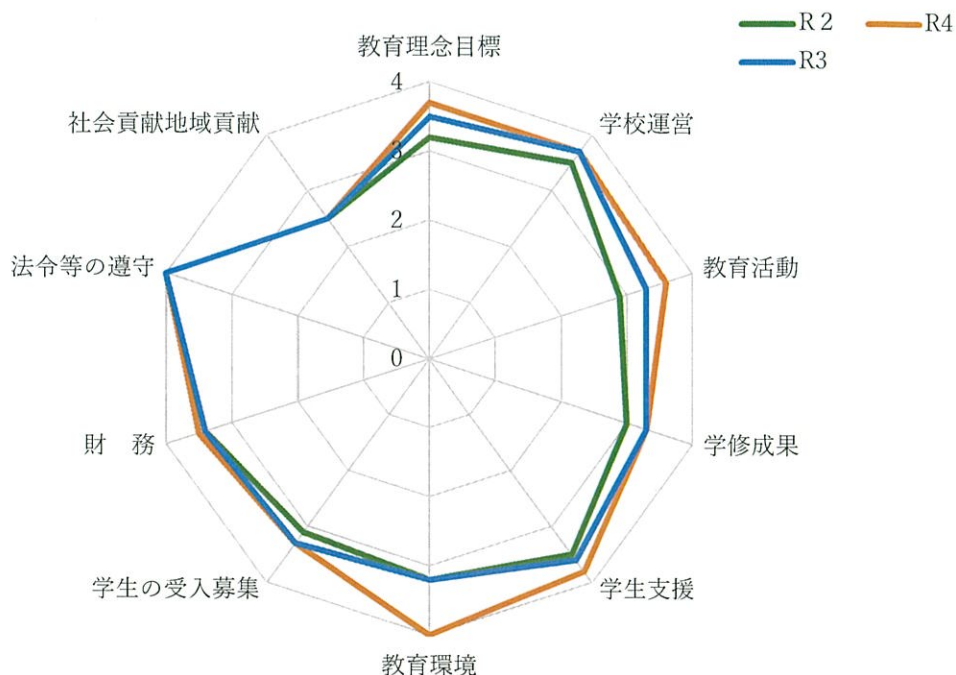
今後もカリキュラム評価を行い、学生の学習環境の改善に努力してまいります。

## 【大項目評価】

評価基準 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X
	教育理念目標	学校運営	教育活動	学修成果	学生支援	教育環境	学生の受入募集	財務	法令等の遵守	社会貢献地域貢献
R4	3.7	3.7	3.6	3.3	3.8	4	3.3	3.5	4	2.5
R3	3.5	3.7	3.3	3.3	3.6	3.2	3.3	3.4	4	2.5
R2	3.2	3.5	2.9	3	3.5	3.2	3.1	3.4	4	2.5

## 【大項目評価のレーダーチャート】



## 【大項目毎の自己評価の要約と詳細】

### (1) 教育理念・目標 3.7

新カリキュラムの教育理念・目的を見直し、卒業時の到達目標も目的に沿った内容にした。これまでの98単位で3030時間から103単位で3060時間とした。具体的には、アクティブラーニングを取り入れた授業の工夫として、グループでの演習（解剖生理学演習・地域体験・臨床薬理学演習・リフレッシュ演習など）を増やし、各領域での周手術期とエンドオブライフは、領域横断として教授することにした。

### (2) 学校運営 3.7

卒業生像は明らかになっており、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーについては、前年度に明文化した。ディプロマポリシーの中のグローバルな視点とキャリア形成については検討が必要である。学校運営に関しては、学則に沿って教員会議で検討し、校長報告後決定しているので適正であると考え。定期的に行う面接での学生情報は、面接用紙と学生カードで保管し共有している。

### (3) 教育活動 3.6

育てたい学生像を達成するために、新カリキュラムの科目ごとにシラバスの見直しを行い「各科目を受講することで、学生のどの能力が培われるのか」を明確に記載した。学生による講義の評価は各専任教員で行い、実習については全体にアンケートを行った。今後、全科目のグループによるアンケートでの授業評価を考えている。

学年代表者との意見交換は行っており、毎年出される「解答用紙の返却と模範解答の照合」は令和5年度に改善するために検討中である。

### (4) 学修成果 3.3

国家試験の新卒の合格率は97.5%であり、全国平均より高水準である。国家試験対策は毎年見直し、1年次から学生の意識改革、普段の学習への取り組みの支援を行っている。また、新カリキュラムの基礎実習Ⅰは5月に実施した。入学したばかりだがコメディカルの活動や病棟での看護を見学し予想以上によく学べていた。学習の成果物は、ロビーに展示し共有している。

### (5) 学生支援 3.8

就職については附属病院の就職支援を実施し、卒業生の94.1%が関連病院に就職した。病院見学の代わりに埼玉医科大学関連病院の動画を紹介している。希望者のほとんどが就職できることは強みである。

退学者は全学年の3.8%の9名で、前年度と同数である。学年別に見ると1年生8.0%の7名、2年生1名で1.4%、3年生1名で1.3%であり、これまで2年生が多かったのに対し、1年生が増えている。休学者4名のうち全員が復学している。

就学資金については、法人からの月額3万円の奨学金制度がある。日本学生支援機構よりの貸付、ローン会社と提携した学資ローンが組めるように整えている。令和元年度より高等教育の無償化制度の指定校となっており、R3年度と同様18名が利用者している。

健康管理面では、保健管理に関する医師を配置しており、年1回健康診査、身体測定、ワクチン接種（B型肝炎、インフルエンザ、コロナ）を実施している。感染対策を徹底しているが令和4年度の感染者は64名で、7・8月が35名と多かった。月に4回程度学生相談室を設けて支援を行っているが、利用者は13名と前年度より減っている。

(6) 教育環境 4.0

施設については、築 20 年を経過しているため、点検が必要であるとする。設備については、3 階の基礎実習室の給湯は長年問題があったが、改修工事を行った。

また、最新のシミュレーターはほとんど備えており有効に活用できているが、メンテナンスが必要な備品が増えてきている。

(7) 学生の受入募集 3.3

R4 年度の入学者数は、80 人定員に対し 75 名で充足率 93.8%であった。高等学校等の説明会や業者主催の進路説明会は高校からの要望が多く、可能な限り参加しオープンキャンパスに誘っている。また、学校主催のオープンキャンパスは年 6 回と前年と同じだが、参加者は前年が 137 名であったが、228 名と増加した。現役の卒業看護師の経験談も取り入れ、入学動機・学生生活・現在の看護活動について実体験からの話があり大変好評である。

(8) 財務 3.5

財務に関しては、経理で適切に執行管理している。予算計画どおりに遂行しているが、今後は、財務担当部署と連携し、収支の状態を把握していく必要がある。

(9) 法令等の遵守 4.0

平成 26 年度から教育活動の内容全般の成果を年報でとりまとめ、関連施設、県内看護学校に送付して公開している。令和 2 年 2 月に第 1 回学校関係者評価委員会を開催してから、現在まで継続し 4 回目になる。結果は、ホームページに公表している。

(10) 社会貢献・地域貢献 2.5

コロナ禍の影響で、今年度も埼玉県や川越市の活動が中止となり、社会や地域への貢献ができなかった。総合医療センター看護部の教育研修の場所としては随時場所を提供している。

しかし、新カリキュラムの骨子のひとつである「地域の方々との具体的な交流」はほとんどなかった。1 年次の 3 月に地域体験として「川越の歴史や生活」を考えるフルドワークを行った。

## 【令和4年度総括】

令和3年度の反省をもとに、前年度と比べ、今年度評価は10項目中5項目で評価が上昇し、5項目が同じ結果となった。

新カリキュラムの教育理念・目的を見直し、卒業時の到達目標も目的に沿った内容にした。103単位で3060時間とした。具体的には、アクティブラーニングを取り入れた授業の工夫をした。

卒業生像は明らかになっており、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーについては、前年度に明文化したが、ディプロマポリシーの中のグローバルな視点とキャリア形成については検討が必要である。学校運営に関しては、学則に沿って教員会議で検討し、校長報告後決定しているので適正であると考える。

国家試験の新卒の合格率は97.5%であり、全国平均より高水準である。国家試験対策は毎年見直し、1年次から学生の意識改革、普段の学習への取り組みの支援を行っている。また、新カリキュラムの基礎実習Ⅰは5月に実施し有効であった。

就職については附属病院の就職支援を実施し、卒業生の94.1%が関連病院に就職した。退学者は全学年の3.8%の9名で、前年度と同数である。学年別に見ると1年生7名で8.0%、2年生1名で1.4%、3年生1名で1.3%であり、これまで2年生が多かったのに対し、1年生が増えている。休学者4名のうち全員が復学している。

就学資金については、法人からの月額3万円の奨学金制度や日本学生支援機構の貸付、高等教育の無償化制度の指定校となっており、R3年度と同様18名が利用者している。

健康管理面では、保健管理に関する医師を配置しており、年1回健康診査を実施している。感染対策を徹底しているが、前年度の15名に対し令和4年度の感染者は64名で、7・8月が35名と多かった。また、月に4回程度学生相談室を設けて支援を行っているが、利用者は13名と前年度より減っている。

財務と法令の遵守については前年度と同じである。実際の財務は学校法人である埼玉医科大学が管理しているので適切と判断した。

社会貢献・地域貢献の項目については、評価は低くなっている。しかし、新カリキュラムで求めている「地域で生活する人々を理解する」ことでは、3月に地域体験として「川越の歴史や生活」を考えるフールドワークを行った。

第3回学校関係者評価での意見として、「18歳人口の減少と大学全入学時代となり、看護専門学校として受験生の確保対策の強化を図る必要がある」との意見があったが、受験者の減少は続いている。優秀な学生確保のための特待生制度や男子寮の設置など検討中であるが進展はない。

特記事項としては、ハラスメントガイドの作成が埼玉県より求められており作成した。令和5年度より運用予定である。前年度と同様に教員に対するクレームがあり対応に苦慮した。「教員の言動が不適切であり、学習意欲が低下した」という内容であるが、学習が困難な学生への指導場面のことが多く教員も指導方法に悩んでいた。